

### 登壇者プロフィール

#### 総司会



#### 松本 陽子

NPO法人愛媛がんサポート おれんじの会  
高校3年生のときに父親をがんで亡くし、その後33歳のときに自身が子宮頸がんにかかると判明。2008年、愛媛でがん患者と家族の会を設立し翌年にNPO法人化。愛媛県からの委託を受けて、仲間と共にピアサポート事業などに取り組んでいる。  
一般社団法人全国がん患者団体連合会理事、緩和ケア委員会委員長。

#### 開会挨拶

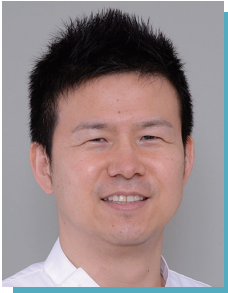


#### 瀬戸 泰之

国立がん研究センター中央病院長 / J-SUPPORT 顧問

1984年東京大学医学部卒。同年、同大学医学部第一外科入局。国立がんセンターがん専門修練医、中通総合病院副院長、がん研有明病院上部消化管担当部長、東京大学医学部消化管外科学教授などを経て、2019年、同病院院長。2024年4月より国立がん研究センター中央病院院長に就任。「患者ファースト」を掲げ、専門家集団を率いる。臨床ではロボット支援手術を活用した食道がん根治術「NOVEL」などを開発した世界的外科医としても知られる。

#### J-SUPPORT 紹介



#### 松岡 弘道

国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科、支持療法開発部門 / J-SUPPORT 代表

2002年奈良県立医科大学卒業の後、2012年近畿大学大学院腫瘍病態制御学卒業。同年より緩和ケアチーム専従医、2017年に豪UTS(University of Technology Sydney)客員教授となり、国際共同研究のノウハウを学び帰国。近畿大学医学部心療内科准教授を経て、2020年より現職。2024年4月より支持療法開発部門長併任。J-SUPPORT 代表。日本サイコロジコロジー学会業務執行理事、日本緩和医療学会理事。

#### 研究紹介：進行がん患者さんの息苦しさを和らげる治療を開発する (J-SUPPORT2201 / JORTC-PAL22)



#### 森 雅紀

聖隷三方原病院 緩和支援治療科 / J-SUPPORT

2002年京都大学医学部卒業。日米での内科研修を経て2007年よりMDアンダーソンがんセンターにてホスピス緩和医療、2008年よりバーモント大学医学部にて血液・腫瘍内科の後期研修を受ける。2011年より聖隷浜松病院、聖隷三方原病院で緩和ケアに従事。予後についての話し合いの研究 (J-SUPPORT1601)、進行がん患者の呼吸困難の緩和をめざす研究 (J-SUPPORT 2201 / JORTC-PAL22) など、コミュニケーションや症状緩和に関する研究に取り組んでいる。



#### 轟 浩美

認定特定非営利活動法人 希望の会

スキルス胃がんで配偶者を亡くした遺族の立場。2014年まで学習院幼稚園教諭。今年で希望の会設立10年目を迎える。

『知ることは力になる』をモットーに、日本胃癌学会の協力を得ての発信および胃がん患者会の国際連携にも取り組んでいる。

全国がん患者団体連合会理事  
厚生労働省がん対策推進協議会元構成員  
東京都がん対策推進協議会委員  
患者向け胃癌治療ガイドライン作成委員



## 全田 貞幹

国立がん研究センター東病院 放射線治療科、  
支持・緩和研究開発支援室 / J-SUPPORT

2000年防衛医科大学校卒、2014年東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科修了。2006年から国立がん研究センター東病院放射線治療科勤務、現職は放射線治療科長。2020年より支持・緩和研究開発支援室長を兼務。2015年より国立がん研究センター中央病院支持療法開発部門を兼務し、J-SUPPORTの支持療法グループのディレクター、事務局長を務める。専門は放射線治療、頭頸部がん、支持療法。



## 高橋 みどり

一般社団法人 CSRプロジェクト

2007年に外資系金融機関を退職後、乳がんに罹患。それを機にがん患者支援活動に参加し、2011年より一般社団法人 CSR プロジェクトの理事・事務局長をつとめる。2021年には子宮体がん罹患、Wキャンサー・サバイバーとしてがん体験者の就労支援・啓発活動につとめている。全国がん患者団体連合会緩和ケア委員会所属。



## 竹内 香

がん患者の家族と遺族のためのサロン  
「ふらっと」代表

2006年父親をがんで亡くしたことをきっかけに、がん患者支援活動に携わるようになる。2012年に京都市内で患者さんを支える人(支えてきた人)のための分かち合いの場「ふらっと」を立ち上げ、これまでの参加者はのべ1500名以上、現在も毎月開催を続けている。また、京都府内で患者支援活動に携わる人のための人材育成にも取り組んでいる。京都府がん患者団体等連絡協議会 理事、NPO法人京都がん医療を考える会 理事。



## 野田 真由美

NPO法人 支えあう会「α」

1998年乳がん罹患、インターネットで患者仲間との出会いを経験。ほぼ同時進行で父親に膀胱がんが見つかり、1年弱の闘病をキーパーソンとして支えた。自身と父の闘病体験を個人サイトで公開。2001年より患者会にスタッフとして参加。2007年から2018年千葉県がんセンターにがん専門相談員として勤務。この間、大腸がんの母親を在宅で看取る。患者家族支援活動のほか、がんピアサポーター養成支援にも取り組んでいる。



## 石黒 洋

埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科  
教授・副診療部長 / J-SUPPORT

金沢大学医学部卒、医学博士。1996年NY・ベイスイスラエル病院内科研修修了、1999年NY大学臨床腫瘍学・血液学研修修了、米国内科・血液及び腫瘍内科専門医取得後帰国。2005年から2017年京都大学病院勤務。2017年国際医療福祉大学臨床腫瘍科教授就任。2020年から現職。総合内科専門医、がん薬物療法専門医・指導医、乳腺専門医・指導医。Japan Breast Cancer Research Group 臨床試験担当常任理事、日本乳癌学会教育研修委員会副委員長、日本がんサポーターケア学会保険委員会委員、他。



## 松本 禎久

がん研究会有明病院 緩和治療科 /  
J-SUPPORT

1999年金沢大学医学部医学科卒業。2007年より国立がん研究センター東病院緩和医療科勤務、2018年より同院緩和医療科長。2022年よりがん研究会有明病院 緩和治療科部長。専門は緩和医療、がん疼痛治療。専門資格：緩和医療専門医・指導医、ペインクリニック専門医、麻酔科専門医。日本緩和医療学会理事、日本がんサポーターケア学会理事、日本サイコロジ学会代議員、日本ペインクリニック学会評議員。

## 閉会挨拶



## 中釜 斉

国立がん研究センター理事長

1982年東京大学医学部卒。1990年同大学医学部第三内科助手。1991年から米国マサチューセッツ工科大学がん研究センター・リサーチフェロー。1995年以降国立がんセンター研究所発がん研究部室長、生化学部長、副所長、所長を歴任。2016年4月より国立がん研究センター理事長・総長。ヒト発がんの環境要因、及び遺伝的要因の解析とその分子機構に関する研究に従事してきた。分子腫瘍学、がんゲノム、環境発がんが専門。

開催日時：2024年11月12日(火) 18:30~20:00

申込先：こちらのリンクからお申込みください  
<https://ws.formzu.net/dist/S23190701/>

※お申込み締切：2024年11月10日(日)



【主催】 J-SUPPORT 日本がん支持療法研究グループ  
【共催】 一般社団法人 全国がん患者団体連合会、  
SaQRA 日本がんサバイバーシップ研究グループ  
【運営支援】 キャンサー・ソリューションズ株式会社

本報告会は、全国がん患者団体連合会(全がん連)が運営をお手伝いしています。全がん連には49団体が加盟していて、政策提言や「がん患者学会」の開催、がん教育委員会、緩和ケア委員会、サバイバーシップ委員会、政策提言委員会、ピアサポート委員会、PPI委員会がありそれぞれの委員会活動などを行っています。